

「求められる力」を 大学はどう育てているか

大学入試センター試験に代わる新テストが揺れています。
今春、高校に入学する生徒が大学を受験するときには、
いったいどうなっているのでしょうか。
しかし、既に多くの大学は、社会で活躍する人材を輩出しようと
さまざまな改革に取り組んでいます。
わが子が伸びる大学は？最新の事例に注目していきましょう。

教育ジャーナリストが最新解説

教えて!「大学入学共通テストって、そもそも何?
大学選びのポイントも変わるの?」

大学教育の今 — Trend of University

キャリア教育

國學院大學	p.38
千葉商科大学	p.40
明海大学	p.42

新しい学び

共立女子大学	p.44
杏林大学	p.46
山野美容芸術短期大学	p.48

教えて！

「大学入学共通テストって、そもそも何？ 大学選びのポイントも変わるの？」

来年1月から、大学入試センター試験に代わって「大学入学共通テスト」（以下「共通テスト」）が実施されます。しかし昨年末、制度の柱だった英語の民間資格・検定試験活用と、国語・数学の記述式問題の出題が見送られることとなりました。二つの柱の見送りで、センター試験に戻るのか？ そもそも共通テストへの衣替えは、何を狙っていたのか――。

教育ジャーナリスト **渡辺敦司**

教育専門誌を中心に、教育行政から実践まで幅広く取材・執筆。Webサイト「リクルート進学総研」に「教育トピック 教えて!」シリーズを連載。

今春新入生が受験する態勢は 基本的に3年生と同じ

「共通テスト」も含めた大学入試の見直しについては、文部科学省で今年1月から、有識者や関係団体代表者を集めた「大学入試のあり方に関する検討会議」が議論を行っています。萩生田光一文科科学相は初会合の挨拶で、今後1年程度で取りまとめを行うよう要請しました。

1年程度というのは、新しい高校学習指導要領（2018年告示）で学ぶ22年度入学生が大学を受験する年（24年度中に実施される25年度入試）に間に合わせるためです。というのも、大学入試を大幅に変えるには「2年前ルール」といって、2年程度前（25年度入試の場合は22年中）には

各大学が大きな出題教科・科目などを受験生に予告する慣行があるからです。そのために国は、さらにその1年前（21年夏ごろ）には、どのような制度改革を行うかを各大学に予告する必要があると見られます。検討会議が20年中に提言を出せば、ちょうど間に合うスケジュールです。

ですから今春の新入生にとっては、今年度の3年生が受験する入試の態勢が基本的に引き継がれることになります。今後、各大学がどのような入学者選抜要項を出してくるかが、改めて注目されます。

センター試験から

出題傾向はがらつと変わる

ところで、二つの柱の見送りによって、

「共通テスト」本体はどうなるのでしょうか。よく「振り出しに戻った」とか「名称が変わっただけだ」ともいわれるのですが、本当にそうなのでしょうか。

図1を見てください。上にある「学力の3要素」とは、学校教育法30条2項に規定されている、小・中・高校などで育成すべき、①基礎的な「知識・技能」②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」③主体的に学習に取り組む態度――のうち、大学でも活用できるよう、③を「主体性を持て多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」と言い換えたものです。

つまり、現行のセンター試験が、思考力・判断力・表現力を視野に入れないが、知識・技能に力点が置かれてい

るのに対して、「共通テスト」では、思考力・判断力・表現力の測定に比重を移すものです。二つの柱が見送られたことで「表現力」は問われなくなったものの、基本的な方針に変更はありません。わかりやすく言えば、「出題傾向ががらつと変わる」ということにはなりません。

近年のセンター試験でも「共通テスト」への移行を意識した出題がなされているため、変化は見えにくいかもしれません。しかし、高校の授業で知識・技能をしつかり身につけたうえで、思考力・判断力・表現力も鍛えることが不可欠になるのです。

大学入試センターの「共通テスト」問題作成方針で「授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方

図1 入試における「学力の3要素」の評価ポイントの変化

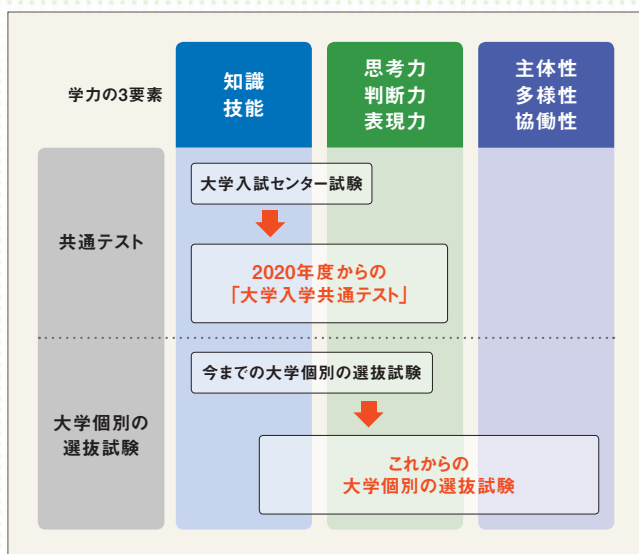
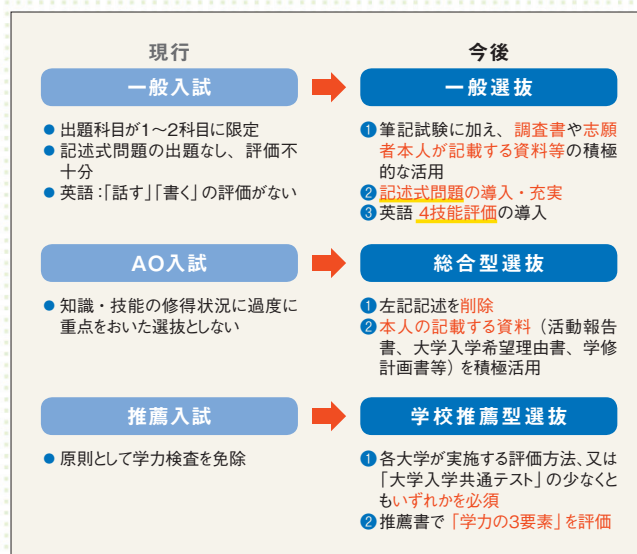


図2 大学個別入試の主な変更点



さて、もう一度図1を見てください。大学個別の選抜試験では、主体性・多様性・協働性も含めた「学力の3要素」すべてを評価して入学者を選抜することが求められます。この方針

個別選抜では主体性など「学力の3要素」すべてを評価

「学力の3要素」すべてを評価

法を構想する場合、資料やデータ等を基に考察する場合など、学習の過程を意識した問題の場面設定を重視する」とされていることも注目されます。「共通テスト」は、高校の授業の改善を促すという「メッセージ性」（問題作成方針）が込められています。だからこそ、「どのように学ぶのか」を踏まえた問題の場面設定を重視するのだといえます。

各高校では近年、「共通テスト」への移行はもとより新指導要領の全面実施をにらんで、ともすれば教え込みにになりがちな授業の改善が大きく進んできています。そんな高校の授業に真面目に取り組むことが、実は「共通テスト」対策の早道だといえるでしょう。引き続きマーク式だけではなく、前後の解答によって正答となる組み合わせが複数ある「連動型の問題」も出題される場合があります。より思考力を働かせて判断することが求められます。

さて、もう一度図1を見てください。大学個別の選抜試験では、主体性・多様性・協働性も含めた「学力の3要素」すべてを評価して入学者を選抜することが求められます。この方針

個別選抜では主体性など「学力の3要素」すべてを評価

「学力の3要素」すべてを評価

法を構想する場合、資料やデータ等を基に考察する場合など、学習の過程を意識した問題の場面設定を重視する」とされていることも注目されます。「共通テスト」は、高校の授業の改善を促すという「メッセージ性」（問題作成方針）が込められています。だからこそ、「どのように学ぶのか」を踏まえた問題の場面設定を重視するのだといえます。

各高校では近年、「共通テスト」への移行はもとより新指導要領の全面実施をにらんで、ともすれば教え込みにになりがちな授業の改善が大きく進んできています。そんな高校の授業に真面目に取り組むことが、実は「共通テスト」対策の早道だといえるでしょう。引き続きマーク式だけではなく、前後の解答によって正答となる組み合わせが複数ある「連動型の問題」も出題される場合があります。より思考力を働かせて判断することが求められます。

さて、もう一度図1を見てください。大学個別の選抜試験では、主体性・多様性・協働性も含めた「学力の3要素」すべてを評価して入学者を選抜することが求められます。この方針

個別選抜では主体性など「学力の3要素」すべてを評価

「学力の3要素」すべてを評価

法を構想する場合、資料やデータ等を基に考察する場合など、学習の過程を意識した問題の場面設定を重視する」とされていることも注目されます。「共通テスト」は、高校の授業の改善を促すという「メッセージ性」（問題作成方針）が込められています。だからこそ、「どのように学ぶのか」を踏まえた問題の場面設定を重視するのだといえます。

各高校では近年、「共通テスト」への移行はもとより新指導要領の全面実施をにらんで、ともすれば教え込みにになりがちな授業の改善が大きく進んできています。そんな高校の授業に真面目に取り組むことが、実は「共通テスト」対策の早道だといえるでしょう。引き続きマーク式だけではなく、前後の解答によって正答となる組み合わせが複数ある「連動型の問題」も出題される場合があります。より思考力を働かせて判断することが求められます。